ぬ程の激しい都市建設を結果した。かくて個々の聚落は互に切り離すことの出來ぬまでに結合し、稠密な交通網が全地域に張り廻らされた。

（未完）

〔獨逸の工業地域〕の正誤表

			誤	正
第二十二卷	第四號	六一頁	上段一四行	工業部内 工業部門
仝	仝	下段一五行	併して	併し
仝	仝	六二頁	下段一三行	ガラス・砂 ガラス砂
仝	仝	六九頁	上段一七行	砂鐵 褐鐵鑛
仝	第五號	五五頁	下段六行	又又 又
仝	仝	五六頁	上段六行	するものでは するのでは
仝	仝	六五頁	下段一二行	カッヅ カッツ
仝	仝	下段一五行	代理	バッハ バッハ
仝	仝	六八頁	下段九行	大な 大きな
仝	第六號	六五頁	上段一行	草原地方は 草原地方では
仝	仝	六九頁	上段一六行	企業形態 經營形態
仝	仝	七三頁	上段五行	木織維 木質織維
第二十三卷	第二號	六九頁	下段十九行	狹義 狹い

小山進氏の逝去を弔ふ

本間不二男

昭和十年二月六日午前九時四十分小山進氏は遂ひに逝去された。享年僅に五十二。然し人生の眞の永さは何等地上で呼吸した時間の永さには比例しない。小山氏は有意義な人生を緊張し切つた生活を通して送られ、遂ひに大往生を遂げられたのであるから、又以つて冥すべきである。

小山氏は謹嚴精勵鄕人の擧げて尊敬する先生

であつた。小山氏は自から持する事頗る嚴、人に對しては極めて寛であり、其の縣視學として人事に當られた時は至公至平かつて些さかの私情にも動された事を聞かぬ。然も其の兩親家族を始め交友する人々に對しては切々たる眞情を以つて接し、何人をも感激せしめずには措かなかつた。

小山進氏は信濃教育會小縣支部にあつて鄕土の地質鑛物研究の部を擔當し、過去二十年足跡縣下に遍く、昭和六年筆者と共に信濃中部地質誌及び同地質圖を公にし、又た其の後八ヶ岳火山群の踏査に從事せられ殆ど其の業を了へんとして遽に逝去された。眞に惜しみても餘りある事である。是等の調査に當つて氏は公務の閒日曜、祭日、其の他の休暇を利用して山野を跋涉し其の精勵ぶりは殆ど人閒技ざとも思はれなかつた。此の精勵は彼の教育會に對する責任觀と其の尊敬すべき人生に對する信念とから來たものである。彼は所謂小人閑居して不善を爲す流の人生觀を堅持し、人閒は須く大自然と融合すべしと主張した。特に年若き男女の教員を訓育する上に其の必要を感じて居たのである。日曜、祭日等に若き教員諸君が閑居して小說講談に讀み耽り或は文學政治を論じて無益なる時を過す閒に品性を損じ、人倫の道を誤る行の生ずることを深く虞へ、農山村にあるものは須く此の大自然の閒より福音を見出すべく、山野に外でて實地に動植物地質鑛物は勿論先史學地理學等何等かの研究をなし、此の限りなき自然の開發に努力し惠澤に浴すべきであると信じてゐた。小山氏は性來寧ろ寡言加ふるに自己の所信を他人に强いる人でなかつたから、此の種の意見を强張されることも少なかつたであらうが、小山氏の一生は實に其の生ける龜鑑である。小山氏の肉體は去つて歸る事なくも、幸に彼れの此の信念に感じ大自然の恩惠を享受する事の出來る人が今後相續いで出づるならば、蓋し彼れの精神は永遠に生きるのである。上原不器君は小山進

氏の遺業を繼いで地質鑛物方面の研究を今後も進めて行かるれのであるが、他の方面の研究者も續出せられんことを小山進氏の逝去に際して心から祈る次第である。

人生五十有二年彼れの此の地上に呼吸した時間は短かきに失し、其の永眠は惜しみても餘りある。然し人の一生を其の在りし日の數によつて計へしむることなかれ、彼れは既に鄉黨の尊崇を一身に集め、彼等の心中に永遠に生くべき所を見出し、又た信濃の山野は小山氏が二十年の踏査によつて其の自から語る事能はざりし神秘を我等に明にし、胸襟を開いて鄉黨と共に融合するの日の早からんことを待つて居る。

小山進氏の生涯に其の一生を有意義に送られた人類の尊き一例を見出し、彼の精神が多數の後繼者に宿つて永遠の生命となり、彼れの短き一生に恨みなからしめんことを。謹みて此の一文を佛前に捧げる。

新著紹介

○地理論叢　第五輯　京都帝國大學文學部地理學教室編

菊版二二三頁　東京古今書院發行　昭和九年十二月
定價二圓二〇錢

關西に於ける人文地理學研究の一中心たる石橋博士主宰の地理學教室は地理論叢として其處で行はれてゐる成業を公にしてゐるのは嘱目に價するが矢繼速やに其の第五輯が發刊されたのは地理學界に對し慶賀の到りに堪へない。本論におさむる所は次に掲ぐる如く研究及報告として六篇、資料及餘錄としての三篇である。國の内外に亘り各種の人文を取扱つてゐるので精彩陸離たるものがある。(S)

小牧實繁　本邦海岸砂丘固定作業史の斷片(第三報)
田中秀作　獨逸民族の海外植民に就いて
野澤　浩　廣島市の發達と其の人文現象の地域的考察
增田忠雄　文化圏の外殼の研究　第一報　牧場—特に甲斐の馬牧につきて—
室賀信夫　飛騨國の交通系に就いて—二三の歴史地理學的考察
米倉二郎　肥前平野の條里(豫報)
織田武雄　Piri Réis の地圖と Columbus の地圖
小牧實繁　日本に於ける聚落の高距離限度補遺